

# 令和4年度 西東京市立学校 学校経営計画

学校名

西東京市立保谷第二小学校

校長名

三澤 亘潤

## 教育理念及び教育目標

西東京市子ども条例の理念のもと、学習指導要領改訂の趣旨を踏まえ、あらゆる教育活動を通して、以下の視点で児童が自らの人生をよりよく「生きる力」を育み、このことにより、社会の中で自ら伸びゆく児童の育成に尽くす。

### 「自ら伸びる」

○よく考える子

○思いやりのある子

○たくましい子

## 学校の特徴

児童：独自のスタンダード「ホニ学のススメ」が浸透し、価値付けられている。  
縦割り活動を通して、異年齢交流を深めている。

地域：幼保小中高大が隣接する、一貫教育地域である。

PTA、おやじの会、育成会、ホニヤギサポーターなどの活動が盛んであり、地域の教育参画意欲が高い。

職員：学習指導要領の本格実施や、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴うニューノーマルの到来など、変革の時代にあって、自ら学ぶ意欲を糧に、職務のイノベーションを図る気概に溢れている。

平成28年度 西東京市教育委員会研究奨励校（算数）

平成29年度 西東京市教育委員会研究奨励校（算数）

平成30年度 西東京市教育委員会研究奨励校（道徳）

平成31年度～令和2年度

西東京市立学校教育研究奨励事業研究指定校（算数）

令和4年度 西東京市立学校教育研究奨励事業研究奨励校（コミュニティ・スクール）

## 目指す学校像

（学校像、児童・生徒像、教師像）

### 《目指す学校像》

- ・地域社会との協働により、それぞれの児童の教育ニーズに応じ、次代を担う市民を育む「社会の雛形」としての学校
- ・生涯にわたって心の拠り所となる「地域のふるさと」としての学校

### 《目指す児童像》

- ・知・徳・体の調和がとれ、自らの向上を図る「自ら伸びる児童」
- ・他者を尊重し、集団の中で積極的に自らの役割を果たそうとする児童

### 《目指す教師像》

- ・専門職としての使命感と誇りをもち、創意工夫に満ちた指導の充実に努め、子どもの心に灯をともしことのできる「プロフェッショナルの教師」

# 学校経営の目標

## 1 中期経営目標

- (1) 教育効果の向上
- (2) GIGA スクール構想の具現化
- (3) 心に寄り添う指導の実現
- (4) 地域に開かれた学校の実現

## 2 短期経営目標（本年度の重点目標）

- (1) 各教科等を横断させたカリキュラム・マネジメントの実施
- (2) 各教科等を縦断させたカリキュラム・マネジメントの実施
- (3) 個別最適化された学びの実現
- (4) あったかい学校の実現
- (5) 次世代型コミュニティ・スクールへの脱皮
- (6) 校務改善による働き方改革の推進

コロナ禍における学習指導要領本格実施で得た知見を踏まえて、ニューノーマルの時代を生き抜くに資する新たな取組を、「保二小テイクオフプラン」として策定し、  
・市民科の創設  
・どこでもドアプロジェクトの展開等を企図した。

# 具体的方策

（短期経営目標を達成するための学校の具体的な取組）

## (1) 各教科等を横断させたカリキュラム・マネジメントの実施 [横系]

- 総合的な学習の時間と道徳科、特別活動を軸に、各教科等の指導内容を横断させ、往還させることで、教育効果を向上させ、深い学びを実現する。
  - ・「保二小 指導内容関連表」の本格稼働
- 地域の教育力を位置付け、横断型の複合単元を集積した「市民科」を展開する。

## (2) 各教科等を縦断させたカリキュラム・マネジメントの実施 [縦系]

- 自ら類推し、自立的に問題解決を図るために鍵となるターゲット問題を6年間にわたって指定したカリキュラムにより、系統的な指導を具体的に進める。
  - ・関数の考え方につながる「保二小 算数科課題改善カリキュラム」の全校実施
  - ・漢字の構成に着眼した「保二小 漢字指導課題改善カリキュラム」の全校実施

## (3) 個別最適化された学びの実現 [GIGA スクール構想 Ver.2.0]

- タブレット型端末活用の次の段階を指向し、信頼できる複数のテキストから総合的に判断できる力を育てる「保二小 どこでもドアプロジェクト」を展開する。
- 自立的な学びを支えるための「学び方の学び」を6年間にわたって進める。
  - ・国語科単元と連動した「保二小 調べ学習特設カリキュラム」の本格実施
  - ・考えの構造化に資する「保二小 思考ツール特設カリキュラム」の本格実施
- モジュール型短時間学習を導入し、現代の「読み・書き・算盤」の習得を図る。

## (4) 「あったか学校」の実現

- 学習環境のユニバーサル・デザイン化を徹底し、全ての児童の学びに寄り添う。
- 問題解決型校内委員会への転換を図り、具体的方策と進捗を保護者と共有する。

## (5) 次世代型コミュニティ・スクールへの脱皮

- 教科「市民科」を軸とするカリキュラムにおける地域連携を推進し、持続可能な在り方「コミュニティ・スクール Ver.2.0」の開発を担う。
  - ・小中一貫校化を視野に、コミュニティ・スクール間の連携や統合も模索
- 災害時の避難所運営に関する具体的な提案や、「MUFUG パーク」開設への協力、地域の「花いっぱい運動」の推進により、地域拠点化を進める。

## (6) 校務改善による働き方改革の推進

- 校務の精選やワークシェアにより、「児童に向き合う」時間を創出する。